

放課後のクラブ活動の実践

— PTAの協力によるタstime (Tehran After School Time) —

前テヘラン日本人学校 教諭

奈良県五條市立五條中学校 教諭 増田 吉紀

キーワード：社会的制約，日本人会への協力依頼，クラブ活動の始動

1. はじめに

日本人が「イラン」と聞いて何を連想するであろうか。石油，ペルシャ絨毯，シルクロード，ペルセポリス，イスラム教シーア派，服装規制，公開処刑。そして，日本に来て，変造テレホンカードやドラッグを密売する外国人。また最近では，「核兵器を保有したがつている国」という負の要素が増え，イランのイメージは，陰気で，不可解な，不気味なものになっている。最近の大統領選挙での反大統領派の大規模な抗議行動や，人権を無視した武力鎮圧などの新聞記事や報道も目新しい。現実のイランとそこに住む人々を知らない日本人には，黒い狂信者達が支配する，危険な国になってしまっている。

このような国の中にも，経済や文化的な面で活躍している日本人がおり，また，その家族が多くの制約の中で暮らしている。この国に住む日本人の子ども達は，そのほとんどが日本人学校へ通っている。ペルシャ語を使う現地校や，英語を使うブリティッシュスクールやインターナショナルスクールも存在しているが，やはり母国語としての日本語を大切にしたいという思いからかそのような状況である。

テヘラン日本人学校は小学校・中学校が併設されている全校生徒30名程度の学校である。小学1年生と中学3年生が仲良く遊ぶような家族的な側面が強い。学校の中は日本の学校とほとんど代わらない様子であるが，一步外に出ると，数々の制約を受けてしまう。特に女子は，真夏でも体の線を隠すコートと髪の毛を隠すマグナエ（スカーフ）をしなければならず，家族であっても原則的に男女が一緒にスポーツを楽しむことはできない。また，治安の面から一人で買い物にも行けず，友達と遊ぶにも保護者に送ってもらわないとそれもかなわない。そんな子ども達にとって放課後は貴重な時間である。ほとんどすべての子ども達が，最終下校時刻の4時半ぎりぎりまで校庭などで汗を流す。20m四方ほどの芝生が敷かれた小さな校庭ではあるが，家の中と学校しか遊び場がないため，みんな周りに気を遣いながら思い思いの遊びを楽しむ。バスケットボール，サッカー，ティーボール，ゴザを使ってのお家作りなどである。

また，保護者にとっても，スクールバスがないため，毎日の送り迎えが日課となる。そのため学校は情報交換の場でもあり，文化的・体育的な情報を共有する場となる。そんな保護者の一人から「息子が遠方まで空手を習いに行っているのだが，学校を貸してもらうことはできないか。」といった話があった。学校には校務の仕事をしてもらっている現地スタッフが住み込んでいるため実現できない話ではなかったが，それを許してしまうと，他にもピアノやサッカーなどの習いものをしている子ども達の保護者からも学校を貸してほしいという要望が多数持ち上がれば取捨がつかなくなるという恐れがあった。それならばPTA主催の放課後の活動を学校で立ち上げようという気運が強まった。今までも教員主体による「みんなの時間」が小学校3年生以上の児童生徒を対象に存在していたが，保護者や日本人社会全体を指導者として巻き込む形での取り組みが始まった。

2. 活動の実際

(1) 活動が始まるまで

保護者からの要望は4月当初であったが，子ども達がいる時間に課外の活動をやるということで色々な問題が生

じる恐れがあった。その整備のために約5ヶ月を要した。学校運営委員会での話し合い、活動規約の制定、子ども達への設置クラブ希望アンケート、保護者への説明と協力依頼、タstime運営委員の選出、スポーツ保険の加入など多岐にわたった。不安材料も多々あったが、「とにかくスタートさせて欲しい」というPTA会長の一声で、活動が10月から始まることになった。なお、タstime運営委員には委員長にPTA会長、副委員長に学校長、委員として保護者2名、教員2名の合計6名が当たることになった。

(2) 初年度から3年目まで

① クラブ設置希望書

活動したいクラブは、ねらいや活動内容・活動場所、代表保護者や指導者の氏名を所定の用紙に記入し、タstime運営委員長に提出した。代表保護者や指導者が決められない場合は、タstime運営委員で調整をした。活動場所や活動日の調整等の事務的な作業は教員が行った。

② クラブ紹介

各クラブには最低1人の教員が配置された。その教員が中心となり、朝の読書の時間を利用して、子ども達にクラブ紹介を行った。見学後、入部願いを提出させた。仲間意識をはぐくむといったためあてもあったので、希望者が2名以下の場合はタstime運営委員会で設置するかどうか話し合いを行った。

③ 活動クラブ

3年間に活動したクラブは次のようになった。活動場所や気候等も考慮に入れ、設定した。

1年目10月～12月	和太鼓, 科学, 野球・ソフトボール, バasketボール, 絵・工作
1年目1月～3月	和太鼓, 科学探究, 卓球, ダンス・体操, 書道
2年目6月～9月	和太鼓, 科学, 野球, 水泳
2年目10月～12月	和太鼓, 野球, ゲーム
2年目1月～3月	和太鼓, 科学, 野球トレーニング, ゲーム, いけてるバンド天国
3年目5月～10月	和太鼓, 野球, ミニバス&テニス
3年目10月～3月	和太鼓, 科学, 野球, バンド, ダンシング〜

④ 相互見学会

各タームの最終日に実施した。お互いのクラブを見学することにより、次のタームに向けての意識付けを行った。または、取り組んできたものを発表する機会でもあった。

⑤ 発表会

文化系のクラブから「発表する場がほしい」との申し出があった。タstime運営委員会で検討し、活動最終日に行くことになった。2年目、3年目の3月に行ったが、大変な盛り上がりを見せた。また、和太鼓クラブは在イラン日本国大使館主催の日本語弁論大会の中で、毎年演奏を行うことになった。



日本語弁論大会での和太鼓クラブの発表

⑥ 外部講師の招聘

日本人会の会員の中には、サッカーやバンド演奏など、素晴らしい技術を持っている方がいた。「是非とも子ども達に教えていただきたい」と申し込んだところ、快諾していただいた。忙しい中、学校までたびたび足を運び、指導を行っていただいた。

(3) 新たな活動として

このように年々盛り上がりを見せ、充実してきた活動であるが、いくつかの問題が生じた。「指導者になりたいが小さな子どもがいるのでできない」「学校中の活動であるので、未就学児の参加については安全面も考慮に入れ容認したい」「他のクラブとの絡みから、練習時間が限られ、休日には実施しがたい」「不測の事態のたびにタstime運営委員会を開かねばならず、機動力を発揮できない」等、PTA主催の活動には限界を感じるようになった。そこで、来年度からは、このクラブ活動を教員主体の活動にし、特別な技術を持っている保護者には講師として、教員の方から指導をお願いするという形に変えた。

3. 終わりに

PTA会長の「子ども達のために、どうかスタートさせてください。」の一声から始まったが、児童生徒全員がとても楽しみにしている活動となった。特に、いろんな規制があり、思いっきりスポーツに興じたり、文化活動をすることが難しいイランの国の中では、この活動は子ども達のみならず、保護者、日本人会、日本に興味があるイラン人にも一石を投じる活動となった。私は、タstimeの立ち上げ、終焉、新たなクラブ活動の始まりに立ち会うことができ、このことを記録に留めておきたいとの思いから、このようにまとめさせていただいた。これからクラブ活動を立ち上げようという日本人学校の教員の方々の参考の一つになれば嬉しい限りである。